

大型株ファンド

運用報告書(全体版) 第76期

(決算日 2018年1月10日)

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

| | |
|--------|--|
| 商品分類 | 追加型投信／国内／株式 |
| 信託期間 | 無期限 |
| 運用方針 | 安定した収益の確保に重点をおき信託財産の長期にわたる着実な成長を目標として、安定的な運用を行ないます。 |
| 主要投資対象 | わが国の証券取引所第一部上場株式の中から、企業の安定性、収益性および成長性ならびに株価水準などを勘案して選定した資本金100億円以上の大型株 |
| 運用方法 | ①長期的な観点に立って好利回り株を中心に投資を行ないます。 ②株式以外の資産への投資は、原則として信託財産総額の50%以下とします。 |
| 株式組入制限 | 無制限 |
| 分配方針 | 分配対象額は、配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とし、分配対象額から、原則として、配当等収益は全額分配し、売買益も含めて安定した好分配の継続をめざします。 |

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「大型株ファンド」は、このたび、第76期の決算を行ないました。

ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

お問い合わせ先（コールセンター）

TEL 0120-106212

（営業日の9:00~17:00）

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

<0701>

最近5期の運用実績

| 決算期 | 基準価額 | | | T O P I X | | 株式 組入比率 | 株式 先物比率 | 純資産 総額 |
|------------------|------------|-----------------|----------------|-----------|----------------|------------|------------|-----------|
| | (分配落) 円 | 税込み 分配金 円 | 期中 騰落率 % | (参考指数) | 期中 騰落率 % | | | |
| 72期末(2014年1月10日) | 679 | 8 | 56.5 | 1,298.48 | 46.1 | 94.9 | — | 1,614 |
| 73期末(2015年1月13日) | 719 | 9 | 7.2 | 1,374.69 | 5.9 | 98.1 | — | 1,585 |
| 74期末(2016年1月12日) | 736 | 10 | 3.8 | 1,401.95 | 2.0 | 96.1 | — | 1,454 |
| 75期末(2017年1月10日) | 795 | 13 | 9.8 | 1,542.31 | 10.0 | 98.0 | — | 1,517 |
| 76期末(2018年1月10日) | 950 | 15 | 21.4 | 1,892.11 | 22.7 | 98.2 | — | 1,672 |

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 株式先物比率は買建比率－売建比率です。



運用経過

基準価額等の推移について



(注) 期末の基準価額は分配金込みです。

■ 基準価額・騰落率

期首：795円

期末：950円（分配金15円）

騰落率：21.4%（分配金込み）

■ 基準価額の変動要因

米国や欧州を中心とした海外経済が堅調だったことに加え、国内企業のファンダメンタルズが好調に推移したことを背景に国内株式市場が上昇し、基準価額も上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

大型株ファンド

| 年 月 日 | 基 準 価 額 | | T O P I X | | 株 式 組入比率 | 株 式 先物比率 |
|------------------|---------|-------|-----------|-------|-------------|-------------|
| | | 騰 落 率 | (参考指数) | 騰 落 率 | | |
| (期首) 2017年 1月10日 | 円 | % | | % | % | % |
| | 795 | — | 1,542.31 | — | 98.0 | — |
| 1月末 | 796 | 0.1 | 1,521.67 | △1.3 | 98.2 | — |
| 2月末 | 802 | 0.9 | 1,535.32 | △0.5 | 98.8 | — |
| 3月末 | 789 | △0.8 | 1,512.60 | △1.9 | 97.0 | — |
| 4月末 | 793 | △0.3 | 1,531.80 | △0.7 | 98.0 | — |
| 5月末 | 792 | △0.4 | 1,568.37 | 1.7 | 98.3 | — |
| 6月末 | 808 | 1.6 | 1,611.90 | 4.5 | 97.8 | — |
| 7月末 | 815 | 2.5 | 1,618.61 | 4.9 | 97.1 | — |
| 8月末 | 814 | 2.4 | 1,617.41 | 4.9 | 97.4 | — |
| 9月末 | 850 | 6.9 | 1,674.75 | 8.6 | 96.4 | — |
| 10月末 | 895 | 12.6 | 1,765.96 | 14.5 | 97.3 | — |
| 11月末 | 910 | 14.5 | 1,792.08 | 16.2 | 96.9 | — |
| 12月末 | 927 | 16.6 | 1,817.56 | 17.8 | 96.9 | — |
| (期末) 2018年 1月10日 | 965 | 21.4 | 1,892.11 | 22.7 | 98.2 | — |

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

(2017. 1. 11 ~ 2018. 1. 10)

国内株式市況

国内株式市況は、期首より、米国大統領選挙後の株価上昇に対する警戒感に加えて、トランプ米国大統領の政策に対する期待と不透明感が交錯し、一進一退で推移しました。2017年4月に入ると、北朝鮮の地政学リスクの高まりが懸念され、株価は下落しました。しかし4月後半からは、地政学リスク悪化の一巡に加えて、フランス大統領選挙で中道派のマクロン氏が極右政党の候補者を抑えて当選したことが好感され、株価は上昇しました。6月以降は、欧米の中央銀行の金融引き締めペースの見方が交錯し、株価は横ばい圏で推移しました。8月に入ると、再び北朝鮮に関わる地政学リスクが高まったことや、米国の物価統計の弱含みにより米国の2017年中の利上げ観測が後退したこと、対米ドルでの円高が進行したことなどが影響し、株価は軟調に推移しました。9月半ば以降は、米国の2017年中の利上げ観測が再び高まり円安米ドル高となったことや北朝鮮問題への懸念が一服したこと、10月に行なわれた衆議院議員選挙で連立与党が勝利したことなどを受け、株価は上昇しました。11月半ばには急激な株価上昇への懸念から調整する場面が見られたものの、その後は、堅調な国内企業業績や、米国税制改革法案の議会審議の進展および同法の成立が好感され、株価は上昇しました。

前期における「今後の運用方針」

国内株式市場は、短期的にはこれまでの上昇に対する反動から調整局面となる可能性があります。中期的には、米国景気の加速期待や円高懸念の後退、国内企業の来年度の業績改善への期待、日銀によるETF（上場投資信託）購入などで、堅調な推移が続くと想定しています。米国新政権によるインフラ（社会基盤）投資拡大や減税などへの期待は中期的な株価押し上げ要因になると思われますが、具体的な政策に関しては不透明な点も多いため、今後慎重に見極めていきたいと考えています。

業種配分については、為替や金利、資源価格などの変動を注視しながら機動的な対応を行なってまいります。また、中長期的な視点に立ち、事業内容などから将来の株価の上昇が期待できる銘柄や、ファンダメンタルズに基づいたバリュエーションを軸に割安感が強い銘柄などを総合的に判断しながら銘柄を選定して投資する方針です。

ポートフォリオについて

(2017. 1. 11 ~ 2018. 1. 10)

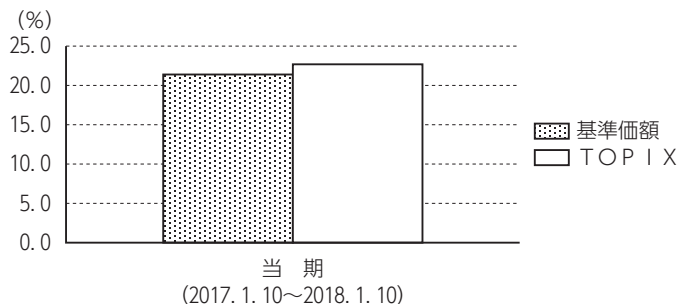
- ・株式組入比率は、期を通して90%程度以上で推移させました。
- ・業種構成は、電気機器、小売業、その他金融業などの比率を引き上げた一方、銀行業、輸送用機器、保険業などの比率を引き下げました。
- ・個別銘柄では、業績見通しや株価指標などを総合的に勘案して、アズビル、ドンキホーテホールディングなどを買付けました。一方で、ソフトバンクグループ、ファナックなどを売却しました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

業種では、参考指数（TOP I X）の騰落率を下回った電気・ガス業や医薬品をアンダーウエートとしていたことなどがプラス要因となりましたが、TOP I Xの騰落率を下回った保険業をオーバーウエートとしていたことなどがマイナス要因となりました。個別銘柄では、ドンキホーテホールディング、コクヨ、ダイフクなどの保有がプラスに寄与しましたが、関電工、T & Dホールディングス、花王などの保有はマイナス要因となりました。

以下のグラフは当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

当期の1口当たり分配金（税込み）は15円といたしました。

収益分配金の決定根拠は下記の「収益分配金の計算過程（1口当たり）」をご参照ください。
 なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■ 分配原資の内訳（1口当たり）

| 項 目 | 当 期 | |
|------------|---------------------------|------|
| | 2017年1月11日 ～2018年1月10日 | |
| 当期分配金（税込み） | （円） | 15 |
| 対基準価額比率 | （％） | 1.55 |
| 当期の収益 | （円） | 15 |
| 当期の収益以外 | （円） | — |
| 翌期繰越分配対象額 | （円） | 406 |

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

■ 収益分配金の計算過程（1口当たり）

| 項 目 | 当 期 |
|----------------------------|--------|
| (a) 経費控除後の配当等収益 | 16.04円 |
| (b) 経費控除後の有価証券売買等損益 | 153.70 |
| (c) 収益調整金 | 21.55 |
| (d) 分配準備積立金 | 230.00 |
| (e) 当期分配対象額（a + b + c + d） | 421.31 |
| (f) 分配金 | 15.00 |
| (g) 翌期繰越分配対象額（e - f） | 406.31 |

（注）下線を付した該当項目から分配金を計上しています。



今後の運用方針

国内株式市場は、ここ1年の上昇に対する反動から、短期的に調整局面となる可能性があります。しかし、米国および欧州の経済は好調であり、中国経済も成長スピードの調整が予想されるものの腰折れにはならないと考えられるなど、海外経済が堅調に推移すると予想されること、また2018年度の国内企業収益も、伸び率は鈍化するものの伸長が見込まれることなどから、株式市場も国内企業の利益成長なみの上昇が期待できると考えています。ただし、ETF購入を含めた日銀の金融政策変更の時期やそのインパクトについては不透明感が強く、今後も慎重に見極めていきたいと考えています。

業種配分については、為替や金利、資源価格などの変動を注視しながら機動的な対応を行なってまいります。また、中長期的な視点に立ち、安定した持続的成長力のある企業や資本効率が高く継続的にキャッシュフローを創出できる企業を中心に、そのバリュエーションの割安感が強い銘柄を選定し投資する方針です。

1口(元本1,000円)当りの費用の明細

| 項 目 | 当 期 (2017. 1. 11~2018. 1. 10) | | 項 目 の 概 要 |
|---------------|----------------------------------|---------|---|
| | 金 額 | 比 率 | |
| 信 託 報 酬 | 6円 | 0.776% | 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は832円です。 |
| (投 信 会 社) | (3) | (0.405) | 投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価 |
| (販 売 会 社) | (2) | (0.215) | 販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 |
| (受 託 銀 行) | (1) | (0.156) | 受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価 |
| 売 買 委 託 手 数 料 | 3 | 0.382 | 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 |
| (株 式) | (3) | (0.382) | |
| 有 価 証 券 取 引 税 | — | — | 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金 |
| そ の 他 費 用 | 0 | 0.005 | その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 |
| (監 査 費 用) | (0) | (0.005) | 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 |
| 合 計 | 10 | 1.163 | |

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は1口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買および取引の状況 株 式

(2017年1月11日から2018年1月10日まで)

| | 買 付 | | 売 付 | |
|----|------------------|------------------|------------------|------------------|
| | 株 数 千株 (△) | 金 額 千円 () | 株 数 千株 () | 金 額 千円 () |
| 国内 | 1,889.7 202.3 | 3,030,683 — | 2,202.7 | 3,162,062 |

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) ()内は株式分割、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 金額の単位未満は切捨て。

■株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

(2017年1月11日から2018年1月10日まで)

| 項 目 | 当 期 |
|---------------------|-------------|
| (a) 期中の株式売買金額 | 6,192,746千円 |
| (b) 期中の平均組入株式時価総額 | 1,489,433千円 |
| (c) 売買高比率 (a) / (b) | 4.15 |

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄 株 式

(2017年1月11日から2018年1月10日まで)

| 当 期 | | | | 期 付 | | | |
|---------------|------|--------|--------|---------------|------|--------|--------|
| 銘 柄 | 株 数 | 金 額 | 平均単価 | 銘 柄 | 株 数 | 金 額 | 平均単価 |
| 日本電信電話 | 12.1 | 64,857 | 5,360 | ソフトバンクグループ | 8.4 | 74,737 | 8,897 |
| トヨタ自動車 | 9.4 | 62,552 | 6,654 | ファナック | 3.2 | 68,614 | 21,442 |
| 日立 | 69 | 59,047 | 855 | 三菱UFJフィナンシャルG | 84.6 | 62,139 | 734 |
| 三井住友フィナンシャルG | 12.3 | 54,048 | 4,394 | 第一生命HLDGS | 30 | 58,122 | 1,937 |
| 三菱電機 | 29.8 | 48,232 | 1,618 | 野村ホールディングス | 85 | 57,825 | 680 |
| ファナック | 2.2 | 48,189 | 21,904 | 住友不動産 | 16 | 51,408 | 3,213 |
| 花王 | 7 | 48,128 | 6,875 | ヤマハ発動機 | 15.6 | 50,612 | 3,244 |
| アサヒグループホールディン | 8.4 | 47,162 | 5,614 | 日本航空 | 14 | 47,199 | 3,371 |
| 横河電機 | 24.4 | 46,212 | 1,893 | コクヨ | 23.5 | 46,995 | 1,999 |
| スズキ | 9 | 46,144 | 5,127 | 住友鉱山 | 32 | 46,077 | 1,439 |

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

(1) 期中の利害関係人との取引状況

(2017年1月11日から2018年1月10日まで)

| 決 算 期 | 当 期 | | | | | |
|---------|-----------|----------------------------|------|-----------|----------------------------|------|
| | 買付額等 A | うち利害 関係人との 取引状況 B | B/A | 売付額等 C | うち利害 関係人との 取引状況 D | D/C |
| | 百万円 | 百万円 | % | 百万円 | 百万円 | % |
| 株式 | 3,030 | 357 | 11.8 | 3,162 | 366 | 11.6 |
| コール・ローン | 8,113 | — | — | — | — | — |

(2) 期中の売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

(2017年1月11日から2018年1月10日まで)

| 項 目 | 当 期 |
|------------------|---------|
| 売買委託手数料総額 (A) | 5,849千円 |
| うち利害関係人への支払額 (B) | 1,017千円 |
| (B) / (A) | 17.4% |

*利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期における当ファンドに係る利害関係人とは、大和証券です。

大型株ファンド

■組入資産明細表 国内株式

| 銘柄 | 期首 | | | 当期末 | | | 銘柄 | 期首 | | | 当期末 | | | 銘柄 | 期首 | | | 当期末 | | |
|-----------------------|-----|------|--------|-----|----|-----|----|-----------------------|------|------|--------|----|-----------------------|-----|------|--------|-----|-----|----|-----|
| | 株数 | 株数 | 評価額 | 株数 | 株数 | 評価額 | | 株数 | 株数 | 評価額 | 株数 | 株数 | 評価額 | | 株数 | 株数 | 評価額 | 株数 | 株数 | 評価額 |
| | 千株 | 千株 | 千円 | | 千株 | 千株 | 千円 | | 千株 | 千株 | 千円 | | 千株 | 千株 | 千円 | | 千株 | 千株 | 千円 | |
| 建設業 (3.6%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 東急建設 | 10 | — | — | | | | | タダノ | 10 | — | — | | ソフトバンクグループ | 8 | — | — | | | | |
| コムスホールディングス | — | 6.3 | 20,443 | | | | | アマノ | 6.8 | — | — | | 卸売業 (6.6%) | | | | | | | |
| 大成建設 | — | 3.2 | 18,464 | | | | | 日本精工 | 10 | — | — | | TOKAIホールディングス | 13 | — | — | | | | |
| 住友林業 | 5 | — | — | | | | | THK | 2 | — | — | | 三菱食品 | — | 6.3 | 20,821 | | | | |
| 大和ハウス | 4 | — | — | | | | | 三菱重工業 | 65 | — | — | | 伊藤忠 | 11 | 20 | 43,900 | | | | |
| 積水ハウス | 3 | 9.5 | 20,163 | | | | | 電気機器 (16.0%) | | | | | 三井物産 | 6.4 | — | — | | | | |
| 関電工 | 5 | — | — | | | | | 日立 | 20 | 59 | 54,132 | | スターゼン | 1.7 | 7.7 | 44,275 | | | | |
| 日揮 | 3 | — | — | | | | | 三菱電機 | — | 14.8 | 29,992 | | 住友商事 | 10 | — | — | | | | |
| | | | | | | | | 日本電産 | 1.5 | — | — | | 三菱商事 | 6 | — | — | | | | |
| 食料品 (3.0%) | | | | | | | | 日新電機 | 5 | — | — | | PALTA C | 2 | — | — | | | | |
| アサヒグループホールディン | — | 8.4 | 48,846 | | | | | 日立国際電気 | 2 | — | — | | イノテック | 9.5 | — | — | | | | |
| 繊維製品 (一) | | | | | | | | ソニー | 10 | 11.2 | 62,619 | | 小売業 (8.2%) | | | | | | | |
| 帝人 | 2.5 | — | — | | | | | TDK | 1.2 | 4.1 | 39,688 | | J.フロントリテイリング | — | 11.8 | 24,673 | | | | |
| 東レ | 15 | — | — | | | | | アルプス電気 | 2 | — | — | | セブン&アイ・HLDGS | 8 | — | — | | | | |
| セーレン | 5 | — | — | | | | | 横河電機 | — | 10.3 | 23,422 | | アドヴァン | 5 | — | — | | | | |
| パルプ・紙 (1.9%) | | | | | | | | アズビル | — | 10.5 | 52,920 | | ドンキホーテホールディング | — | 7.2 | 43,632 | | | | |
| レンゴー | — | 37.3 | 30,399 | | | | | キーエンス | 0.3 | — | — | | 丸井グループ | — | 24.5 | 50,543 | | | | |
| 化学 (6.1%) | | | | | | | | 山一電機 | 5 | — | — | | ニトリホールディングス | — | 0.9 | 15,030 | | | | |
| デンカ | 20 | — | — | | | | | ファナック | 1 | — | — | | 銀行業 (5.9%) | | | | | | | |
| 信越化学 | 3.2 | 4.3 | 51,858 | | | | | 村田製作所 | 1 | — | — | | 三菱UFJフィナンシャルG | 70 | 15.4 | 13,502 | | | | |
| 三井化学 | 10 | — | — | | | | | 小糸製作所 | 2.2 | — | — | | りそなホールディングス | 30 | — | — | | | | |
| 宇部興産 | — | 8.1 | 28,107 | | | | | 東京エレクトロン | 1 | — | — | | 三井住友トラストHD | — | 5.3 | 24,862 | | | | |
| 花王 | 1 | 2.7 | 20,800 | | | | | 輸送用機器 (6.0%) | | | | | 三井住友フィナンシャルG | 6 | 7.6 | 39,345 | | | | |
| 富士フイルムHLDGS | 2.5 | — | — | | | | | いすゞ自動車 | — | 12.8 | 25,094 | | 山陰合同銀行 | — | 16.1 | 18,772 | | | | |
| タカラバイオ | 6 | — | — | | | | | トヨタ自動車 | 3 | 5.4 | 41,612 | | みずほフィナンシャルG | 100 | — | — | | | | |
| 天馬 | 5 | — | — | | | | | 三菱自動車工業 | 40 | — | — | | 証券・商品先物取引業 (一) | | | | | | | |
| 信越ポリマー | 10 | — | — | | | | | マツダ | 10 | — | — | | 野村ホールディングス | 75 | — | — | | | | |
| 医薬品 (2.1%) | | | | | | | | 本田技研 | 5 | — | — | | 保険業 (2.2%) | | | | | | | |
| 塩野義製薬 | — | 5.5 | 34,303 | | | | | スズキ | — | 4.9 | 32,663 | | MS&AD | 4 | — | — | | | | |
| 石油・石炭製品 (2.4%) | | | | | | | | SUBARU | 1 | — | — | | 第一生命HLDGS | 20 | — | — | | | | |
| JXTGホールディングス | — | 50.5 | 39,193 | | | | | ヤマハ発動機 | 3 | — | — | | 東京海上HD | 3 | 6.6 | 35,831 | | | | |
| コスモエネルギーHLDGS | 8 | — | — | | | | | 精密機器 (1.9%) | | | | | T&Dホールディングス | 5 | — | — | | | | |
| ゴム製品 (一) | | | | | | | | 島津製作所 | 6 | 11 | 30,756 | | その他金融業 (3.1%) | | | | | | | |
| ブリヂストン | 5 | — | — | | | | | その他製品 (2.8%) | | | | | アイフル | 60 | — | — | | | | |
| ガラス・土石製品 (一) | | | | | | | | パンダイナムコHLDGS | 2 | 12.2 | 46,726 | | オリックス | 4.6 | 25.2 | 51,710 | | | | |
| 太平洋セメント | 40 | — | — | | | | | 任天堂 | 1.6 | — | — | | 不動産業 (2.1%) | | | | | | | |
| 日本碍子 | 5 | — | — | | | | | 岡村製作所 | 10.5 | — | — | | 三井不動産 | 10 | 11.9 | 34,004 | | | | |
| ニチアス | 8 | — | — | | | | | 陸運業 (4.4%) | | | | | 東京建物 | 3 | — | — | | | | |
| 鉄鋼 (1.4%) | | | | | | | | 東日本旅客鉄道 | — | 3.3 | 38,032 | | 住友不動産 | 10 | — | — | | | | |
| JFEホールディングス | 5 | — | — | | | | | 東海旅客鉄道 | 1.1 | — | — | | サービス業 (4.6%) | | | | | | | |
| 日新製鋼 | 5 | — | — | | | | | 山九 | — | 6.8 | 34,272 | | オリエンタルランド | 1 | — | — | | | | |
| 日立金属 | — | 13.9 | 23,018 | | | | | 海運業 (一) | | | | | ユー・エス・エス | — | 12.1 | 29,850 | | | | |
| 非鉄金属 (1.3%) | | | | | | | | 商船三井 | 40 | — | — | | リクルートホールディングス | — | 16.2 | 45,084 | | | | |
| 日本軽金属HD | 40 | — | — | | | | | 空運業 (一) | | | | | | | | | | | | |
| 住友鉱山 | 3 | — | — | | | | | 日本航空 | 7.5 | — | — | | | | | | | | | |
| 東邦チタニウム | 10 | — | — | | | | | ANAホールディングス | 25 | — | — | | | | | | | | | |
| 住友電工 | 10 | 10.7 | 21,159 | | | | | 情報・通信業 (10.3%) | | | | | | | | | | | | |
| リョービ | 15 | — | — | | | | | 新日鉄住金SO L | 2 | 15 | 46,725 | | | | | | | | | |
| 金属製品 (一) | | | | | | | | 日本電信電話 | 5.5 | 12.1 | 65,049 | | | | | | | | | |
| 三和ホールディングス | 8.5 | — | — | | | | | KDDI | 7.4 | — | — | | | | | | | | | |
| 機械 (4.2%) | | | | | | | | NTTドコモ | 9 | — | — | | | | | | | | | |
| 牧野フライス | 5 | — | — | | | | | 東宝 | — | 3.1 | 12,322 | | | | | | | | | |
| ソディック | 5 | — | — | | | | | NTTデータ | — | 31.9 | 44,564 | | | | | | | | | |
| SMC | — | 0.5 | 24,760 | | | | | スクウェア・エニックス・HD | 2.1 | — | — | | | | | | | | | |
| ダイキン工業 | 1.5 | 3.2 | 44,640 | | | | | カブコン | 4 | — | — | | | | | | | | | |
| ダイフク | 3 | — | — | | | | | コナミホールディングス | 1.5 | — | — | | | | | | | | | |

(注1) 銘柄欄の()内は国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注2) 合計欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注3) 評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2018年1月10日現在

| 項 目 | 当 期 末 | |
|--------------|-----------------|--------|
| | 評 価 額 | 比 率 |
| 株式 | 1,642,588 千円 | 96.3 % |
| コール・ローン等、その他 | 63,687 | 3.7 |
| 投資信託財産総額 | 1,706,276 | 100.0 |

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2018年1月10日現在

| 項 目 | 当 期 末 |
|--------------------------|-----------------------|
| (A) 資産 | 1,706,276,503円 |
| コール・ローン等 | 63,147,683 |
| 株式 (評価額) | 1,642,588,920 |
| 未取配当金 | 539,900 |
| (B) 負債 | 33,635,740 |
| 未払収益分配金 | 26,418,870 |
| 未払解約金 | 1,061,500 |
| 未払信託報酬 | 6,113,009 |
| その他未払費用 | 42,361 |
| (C) 純資産総額 (A - B) | 1,672,640,763 |
| 元本 | 1,761,258,000 |
| 次期繰越損益金 | △ 88,617,237 |
| (D) 受益権総口数 | 1,761,258□ |
| 1□当り基準価額 (C/D) | 950円 |

* 期首における元本額は1,908,531,000円、当期中における追加設定元本額は1,249,000円、同解約元本額は148,522,000円です。

* 当期末の計算口数当りの純資産額は950円です。

* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は88,617,237円です。

■損益の状況

当期 自 2017年1月11日 至 2018年1月10日

| 項 目 | 当 期 |
|------------------------------|----------------------|
| (A) 配当等収益 | 29,398,501円 |
| 受取配当金 | 29,367,612 |
| 受取利息 | 5 |
| その他収益金 | 49,521 |
| 支払利息 | △ 18,637 |
| (B) 有価証券売買損益 | 281,558,393 |
| 売買益 | 375,942,213 |
| 売買損 | △ 94,383,820 |
| (C) 信託報酬等 | △ 11,975,385 |
| (D) 当期損益金 (A + B + C) | 298,981,509 |
| (E) 前期繰越損益金 | 405,094,305 |
| (F) 追加信託差損益金 | △ 766,274,181 |
| (配当等相当額) | (37,971,476) |
| (売買損益相当額) | (△ 804,245,657) |
| (G) 合計 (D + E + F) | △ 62,198,367 |
| (H) 収益分配金 | △ 26,418,870 |
| 次期繰越損益金 (G + H) | △ 88,617,237 |
| 追加信託差損益金 | △ 766,274,181 |
| (配当等相当額) | (37,971,476) |
| (売買損益相当額) | (△ 804,245,657) |
| 分配準備積立金 | 677,656,944 |

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は「収益分配金の計算過程 (総額)」の表をご参照ください。

■収益分配金の計算過程 (総額)

| 項 目 | 当 期 |
|-----------------------------|-------------|
| (a) 経費控除後の配当等収益 | 28,266,827円 |
| (b) 経費控除後の有価証券売買等損益 | 270,714,682 |
| (c) 収益調整金 | 37,971,476 |
| (d) 分配準備積立金 | 405,094,305 |
| (e) 当期分配対象額 (a + b + c + d) | 742,047,290 |
| (f) 分配金 | 26,418,870 |
| (g) 翌期繰越分配対象額 (e - f) | 715,628,420 |
| (h) 受益権総口数 | 1,761,258□ |

| 収 益 分 配 金 の お 知 ら せ | |
|---------------------|-----|
| 1 口 当 り 分 配 金 | 15円 |

分配金の課税上の取扱いについて

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。
- ・普通分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用があります。）を選択することもできます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

当ファンドは少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」および未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA」の適用対象です。非課税口座における取扱いについては販売会社にお問い合わせください。